

**製品名: ニューロテンシンウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab14624**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	20kDa

**抗原情報**

遺伝子名	NTS
別名	NTS; Neurotensin/neuromedin N
遺伝子 ID	4922.0
SwissProt ID	P30990
免疫原	抗血清はヒト NTS の C 末端領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 121-170

**背景**

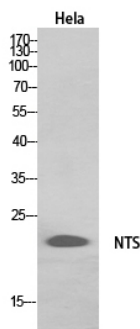
この遺伝子は、ニューロメジン N とニューロテンシンという 2 つのペプチドの共通前駆体をコードしています。ニューロテンシンは

分泌型のトリデカペプチドで、中枢神経系全体に広く分布しており、神経伝達物質または神経調節物質として機能すると考えられます。ドーパミン関連の病態生理学的イベント、腸管の構造と機能の維持、脂肪代謝の調節に関与している可能性があります。ニューロテンシンは、細菌や真菌に対して抗菌活性も示します。組織特異的なプロセッシングにより、一部の組織ではニューロメジン N とニューロテンシンのより大きな形態が形成される可能性があります。これらの大きな形態は、生物学的に活性な、より安定したペプチドである可能性があります。[RefSeq 提供、2014 年 10 月],function:ニューロテンシンは、脂肪代謝の調節において内分泌または傍分泌の役割を果たしている可能性があります。平滑筋の収縮を引き起こします。 ,オンライン情報:ニューロテンシンのエントリ,類似性:ニューロテンシンファミリーに属します。 ,細胞内位置:分泌小胞内にパッケージ化されています。 ,

## 研究分野

神経伝達物質、生体アミン、ドーパミン、神経科学、神経伝達、分泌小胞、シグナル伝達、代謝、脂質代謝

## 画像データ



ニューロテンシンポリクローナル抗体を用いた HeLa 細胞、HepG2 細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈されました。